

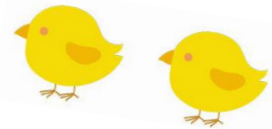
令和5年度 はじめてのエコライフ教室」実施報告



はじめてのエコライフ教室を幼稚園、保育所、こども園などで実施しました。

地球温暖化防止活動推進員が訪問し、幼児や保護者の皆さんと一緒に、しかけ絵本を見たり、エコ工作やごみ分別ゲームなどを楽しみながら、エコライフを学びました。

その後、幼児の皆さんが自ら3つの取組みを選び、家庭で家族と一緒に1週間、エコライフに取り組みました。参加した皆さんは、とりくみシートに貼っていくシールを楽しみに頑張り、多くの家庭でエコライフを習慣にさせていただきました。

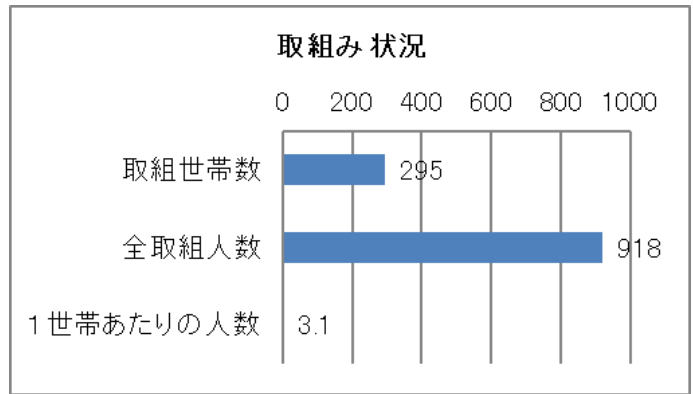
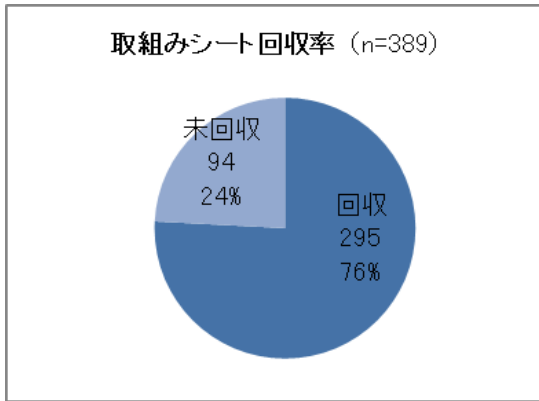


●参加者、取り組んだ人数

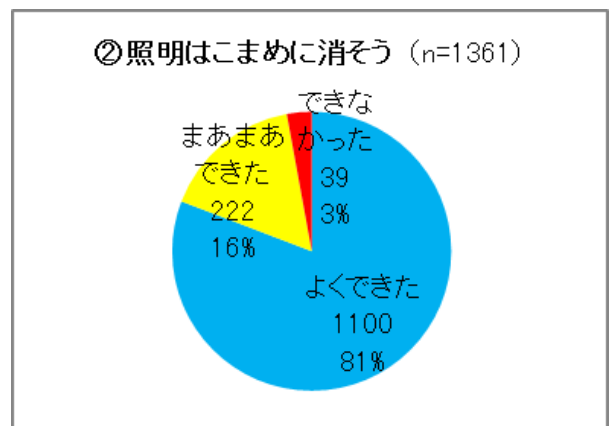
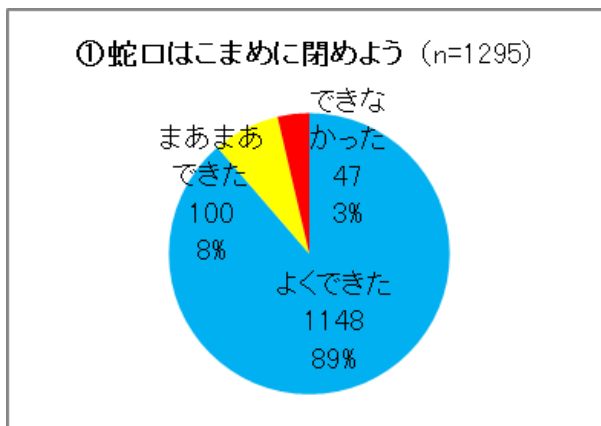
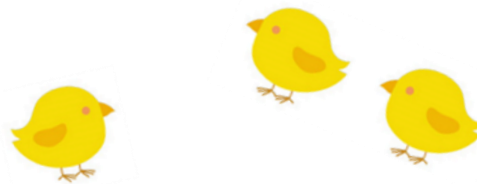
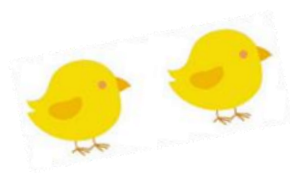
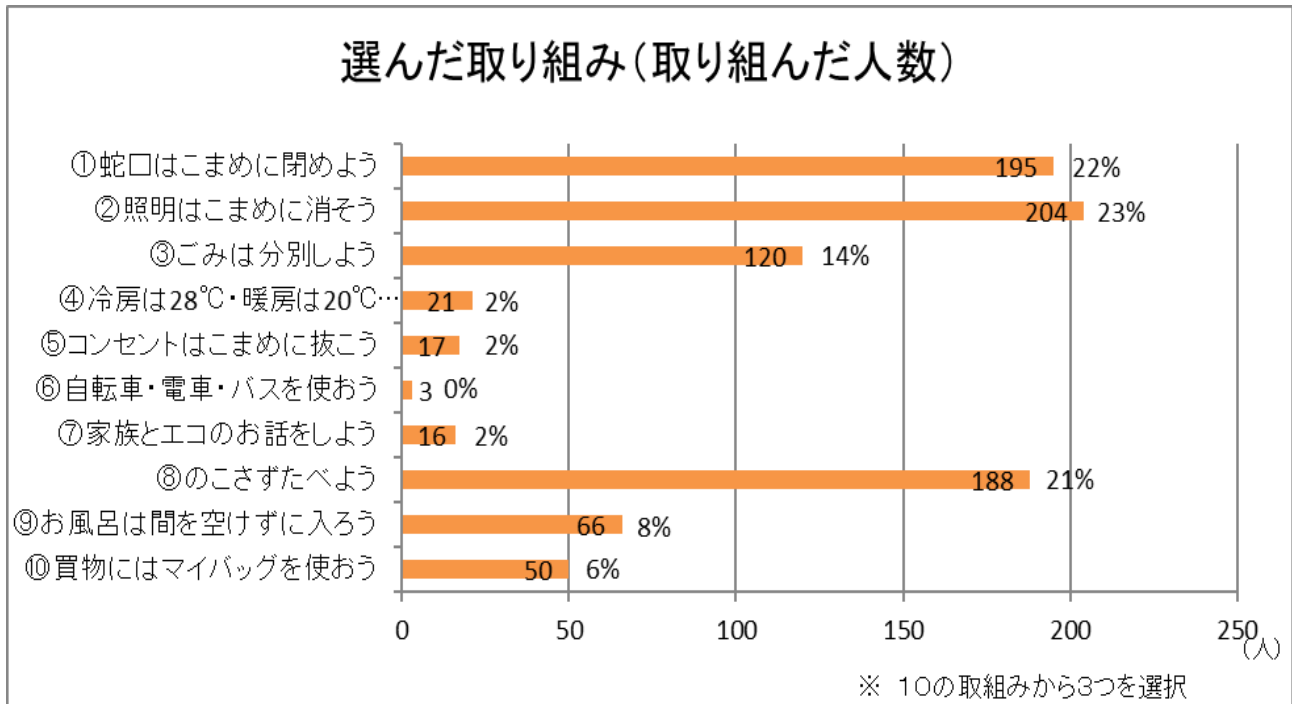
実施幼稚園数	参加幼児数	参加保護者数	取組世帯数	全取組人数 (幼児及びその家族)
12	389人	97人	295枚	918人

令和5年度 はじめてのエコライフ教室 実施園 一覧

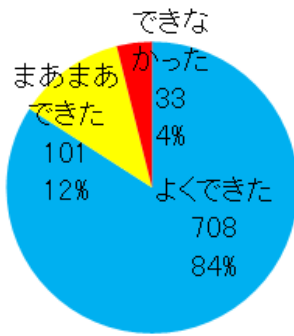
	市町名	幼稚園・保育所名	実施日	対家 幼児年 齢	参加 幼児数	参加 保護者 数	全取組 人数
1	高岡市	和田保育園	6月28日(水)	5	25	5	53
2	高岡市	いずみ幼稚園	6月30日(金)	5	44	43	142
3	黒部市	三島保育所	7月6日(木)	4, 5	44	0	70
4	黒部市	若栗保育所	7月7日(金)	5	17	0	41
5	富山市	富山大学教育学部 附属幼稚園	7月7日(金)	4, 5	60	0	226
6	高岡市	定塚保育園	7月10日(月)	5	29	0	58
7	射水市	新湊つくりみちこども園	7月12日(水)	5	38	0	56
8	黒部市	前沢保育所	7月14日(金)	4, 5	13	0	48
9	滑川市	あずま保育所	7月19日(水)	4, 5	24	0	43
10	高岡市	高岡第一学園 附属第五幼稚園	8月29日(火)	5	41	0	50
11	砺波市	あぶらでん 認定こども園	10月20日(金)	5	42	39	120
12	射水市	下村保育園	10月27日(金)	4	12	10	11
				計	389	97	918



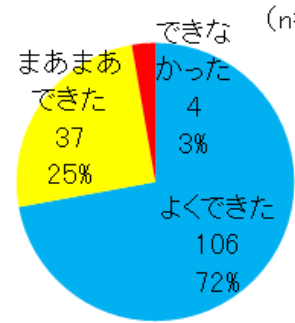
1. 取組み結果



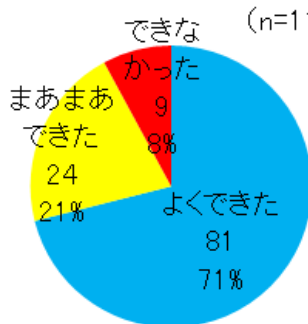
③ごみは分別しよう (n=835)



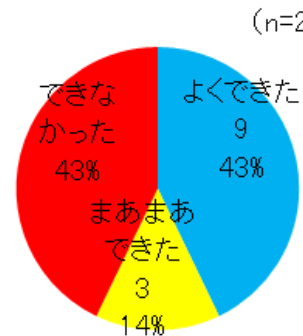
④冷房は28°C・暖房は20°Cにしよう (n=147)



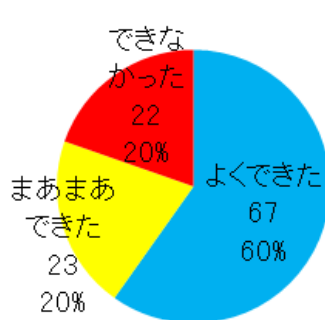
⑤コンセントはこまめに抜こう (n=114)



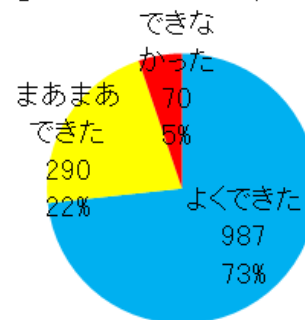
⑥自転車・電車・バスを使おう (n=21)



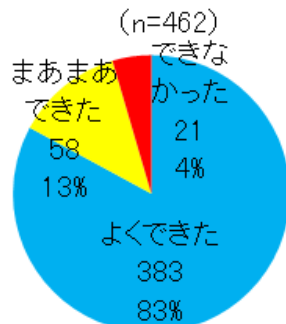
⑦家族とエコのお話をしよう (n=112)



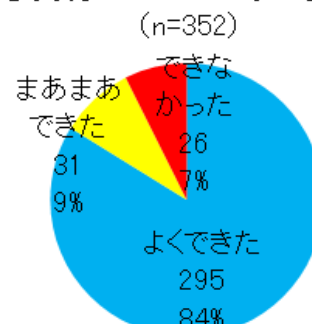
⑧のこさずたべよう (n=1347)



⑨お風呂は間をあけずに入ろう (n=462)

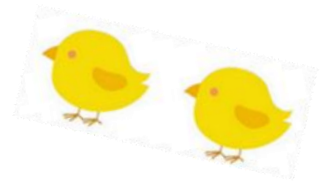
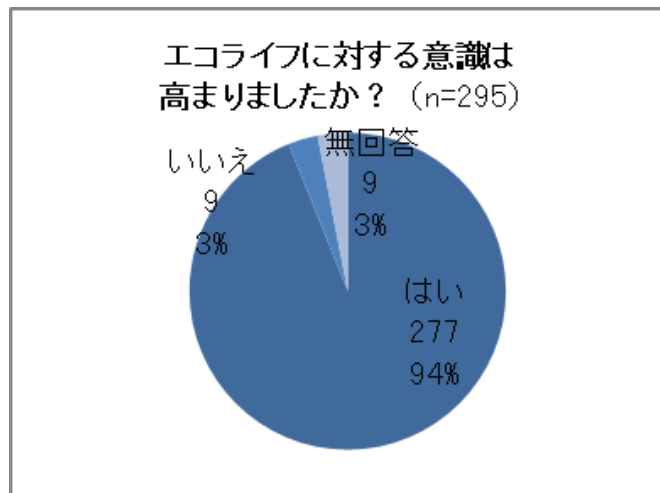


⑩買物にはマイバッグを使おう (n=352)



2. 保護者アンケート

①「はじめてのエコライフ教室」によって、ご家族のエコライフに対する意識は高まりましたか？

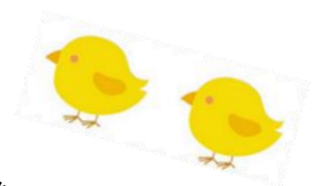
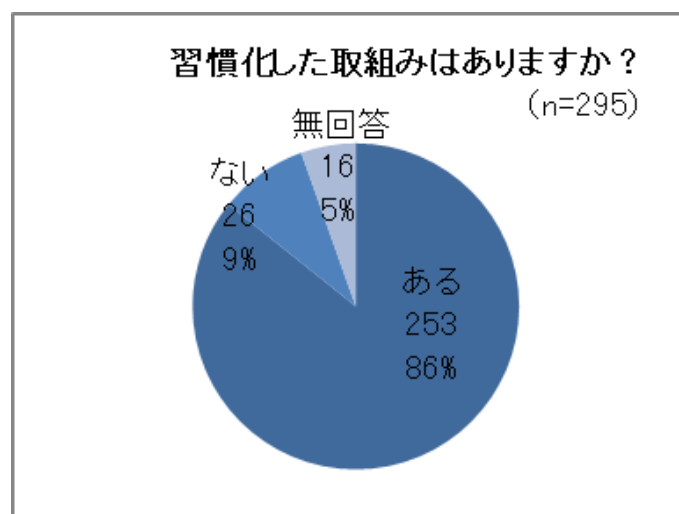


<「はい」の理由> (抜粋)

- ・電気を消すことを意識するようになった。家族全員で取り組めてよかった。
- ・選んだ3つ以外でも意識して気をつけるようになった。
- ・分別マークをよく見るようになった。
- ・「残さず食べる」とはりきっていた。
- ・ごみを捨てる時「これどっち？」と、燃えるごみと燃えないごみ分けるようになった。」また、どちらか悩んでいる姿を見て、大人も改めて見直そうと思った。
- ・SDGsについて考えたり、話したりするきっかけになった。
- ・「このプラスチックは今度は何に生まれ変わるのかな？」等、リサイクル後のことにも目を向けるようになった。
- ・ごみは資源と改めて実感した。
- ・家族で「もったいない」を意識し、それぞれが自分のできることを行うようになった。
- ・いろんなエコのやり方が書いてあり、わかりやすかった。
- ・子どもの口から「エコライフ」という言葉が出てくるようになり親たちもハッと気づかされることがあった。教室に参加した子どもが実際にごみの分別を自分で試みて「ペットボトルはここに捨てるんだよ」「紙はここ」と帰ってきてからも教えてくれるようになった。今まであまり気にしていなかったエコに対して子どもにとって意識する良いきっかけとなったと思う。
- ・地球の心配をするようになった。
- ・「このごみの種類は何か」と会話するようになった。
- ・とりくみシートでふりかえり、達成感があった。
- ・食事を残している兄に対し、娘が「残したらごみになるんだよ」と教えており本人は残さず食べるようになりました。
- ・子どもと共有することで親の意識も高まった。
- ・今までもムダを減らすエコを心がけてきましたが今回冊子などでより深く取り組みに対する知識を子どもと共有することができたから。
- ・節電などできる範囲でできることを探して取り組むようになった。
- ・子どもが興味を持ち親に聞いてくるようになった。
- ・家族で一緒に取り組むことで家族の意識変化につながった。
- ・今まで何気なく注意していたことも、より理解しエコへの取り組みへとつながりました。

- ・子どもがエコに対し関心を持つようになると大人はもっと気をつけようと家族みんなの意識が変わりました。
- ・子どもが率先してエコライフに取り組んでいて両親もつられて意識するようになった。
- ・個人では小さな取り組みでも家族でコツコツと続けていきたい。
- ・家族で参加することでお互い呼びかけるようになった。
- ・特にごみの分別に興味を持ったようで捨てる前にマークをよく確認していました。
- ・できそうなことから少しずつやっっていこうと思った。
- ・子どもたちでできる食品ロスに取り組んだ。
- ・青いシールを貼れるように意識して取り組んだ。
- ・もったいないに意識を向けるようになった。

② 1週間実践した取り組みの中で、習慣化した取り組みはありますか？



<取り組みの内容> (抜粋)

- ・普段は食べ物を残しがちだが「⑧のこさずたべよう」のおかげで残食が減った。
- ・歯みがきや手洗いの時にこまめに蛇口を閉めるようになった。
- ・冷房の設定を 28℃にする癖がついた。
- ・食事の時に感謝していただく。
- ・リサイクルマークのチェック。
- ・少なくしてほしいおかずがあれば最初に言う。米粒まで残さない。
- ・一緒に買い物に行くと「マイバッグ持った？」と聞かれるようになりました。
- ・「のこさず食べよう」は食事のたびにのこさず食べることについて会話し親子で気を付けようと毎日のように話題にあがりました。のこさず食べれる日も増えていきました。
- ・なかなか難しいことですが、料理をする側も食べきれる量を作って食卓に出すことも大切だと感じました。
- ・寝るときに小さなあかりがないと嫌がっていたが、真っ暗でも寝てくれるようになった。
- ・普段の生活の何気ない行動の一つがエコにつながるということがわかり、実践するモチベーションが高まりました。
- ・分別マークに興味を持ちいろいろなもののマークを確認するようになり自らごみの分別をしている。
- ・本人が残すことは“もったいない”ということに気付き、食べ残しが減ったように思う。

③意見・感想 (抜粋)

- ・何よりもこの取り組みを家族全員で参加できたのがよかった。

- ・大人は理由を知って実践しているが、今回の取組みは子供が園での取組みを理解して行動に移してくれ、良い変化になった。
- ・自分たちでできることから実践し少しでも地球温暖化を防ぐために意識してエコライフも取り組みたい。
- ・SDGs やエコについて子どもにもわかりやすく、また、家庭でも実践することでより理解を深められた。
- ・シール貼りで遊びの延長でエコを身につける良い機会になった。
- ・とりくみ「⑥自転車・電車・バスを使おう」は富山では難しいので別案があればよかった。
- ・リサイクルできるのにごみに捨てていたと思うと、とてももったいないことをしていたなと実感した。この機会があり良かった。少しでもエコにつながるといいと思う。
- ・1 週間のは取組みしやすそうなものを選んで行ってみたが、いろんなことで気軽にエコに参加できることを今後子どもと一緒に勉強していきたい。
- ・子どもだけでなく、大人にとっても地球温暖化問題について改めて考える良い機会だったと感じた。節約やごみの分別など、今までもしていましたが、なんとなくしていたものを意識しながらいろいろなことに取り組んでいこうと思います。
- ・小さいうちからそれをあたり前とみんなで意識を高めていきたい。
- ・身近にできることがたくさんあることを本人が学んでくれ、その意識の変化が家族みんなの意識の持ち方につながり良いきっかけになりました。継続できるようお互いに声かけあっていきたいです。
- ・子どもがまだ幼くて難しい項目もありましたが、確実にエコライフについても意識が高まり小さな事からですが、地球のためにやってみようと思うことが増えました。とても良い機会をありがとうございました。
- ・熱中症アラートが出ている中で冷房温度を28℃にしたり公共交通機関や自転車を使うのはなかなか難しいので、とりくみの選択肢がもう少し検討されているとよいと思いましたが、良い機会となりました。
- ・5歳で「エコ」について理解を深めている様子を見て、教室ではとてもわかりやすい内容でお話があったのだと想像できました。自分たちにできることを家族みんなで実践していきます。
- ・機会があれば大人もエコライフ教室を受けたいと思いました。どんなことを子どもが学んできたか知りたいと思ったのと、どういう教え方で子どもがこんなに前向きに取り組めるのかも知りたいと思った。とても有意義な教室だと思います。
- ・地球温暖化について考える良い機会になった。(地球が泣かないようにみんなで取り組んでいきたい)
- ・外出するとき車を使わずに電車を利用した。ゆっくりのんびり電車の移動もいいですね。
- ・教室の実施回数を増やして学べる機会も増やしてほしい。
- ・子どもからの声掛けでハッとすることができた。みんなで気をつけてエコライフが当たり前になるようにしたい。
- ・SDGs について改めて考える良い機会になったと思います。
- ・電気のつけっぱなし、ごみのポイ捨てがあると、地球さんがお熱になっちゃう！と気にしていたのでエコライフの意味を理解していた。
- ・子どもにもわかりやすく書かれているので他の内容も家族で取り組んでみたいと思います。
- ・大人に教えるのではなく、子どもに教えるというこのがとてもいい方法だと思いました。子供がやっているのに親がやらないわけにはいかないので！！
- ・エコ活動が特別なことではなく、当たり前でできる子になってほしいと思います。

●感想 (抜粋)

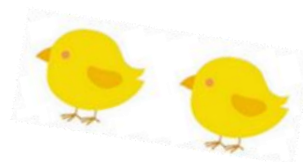
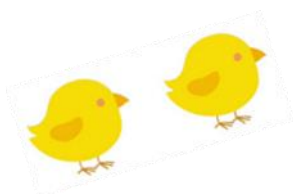
各園の先生

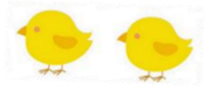
- ・この教室に参加したことにより「新聞紙が生まれ変わったら」「ペットボトルが生まれ変わったら」と言葉にしてリサイクルに興味を持つ子が出てきた。博士の存在で「もったいない」という言葉の意味を理解し、「全部食べたよ」と自ら話す姿も増えた。エコ工作のおもちゃで遊ばせてもらい、広告などの紙を利用して自ら考えて遊ぶ姿が増えた。広告紙は子どもたちにとって折り紙にもなり遊びが広がっている。
- ・絵本の中で水の使い方を教えていただき、普段の生活の中にたくさん“もったいない”があることを改めて知るととても良い機会になった。
- ・アンケートでは「⑩買い物にはマイバッグを使おう」の項目以外を家族で考え実践している方もおり意識が高まったと感じた。
- ・分別ゲームやエコおもちゃでは、一人一人が取り組んでみることで良かったと思います。ごみ箱に捨てる際に「これは紙だから燃えるね」など考える姿も見られるようになりました。
- ・年少児が参加した仕掛け絵本を使った話は、仕掛けが面白く、話もテンポよかったので引き込まれていた。その後の生活の中でも「お弁当を残すともったいないね」等と気付くなど、「もったいない」に気付くよいきっかけとなった。
- ・廃材で作ったおもちゃで楽しそうに遊んでいた。発電させるおもちゃは子供の力では難しい様子も見られた（ハンドルでまわすもの）分別ゲームでは、幼児には少し説明が難しいようで、どこまで伝わっているのか分からないと感じた部分もあった。
- ・ごみの分別では、自分の家から持ってきたもので行ったことがよかった。身近でよく見かけるもので考えて悩んだことで「自分でできた」「もっとできそう」を味わえたと思う。それを取り組みシートを使って家庭でも取り組むことで家族みんなのエコに対する意識が高まるきっかけにつながっている。
- ・取り組みたい項目が子供にわかりやすい内容だったので継続して取り組んでおられます。
- ・エコ工作や発電機で遊ばせてもらい、とても楽しんでいた。「けん玉作りたいからお家から持ってくる！」と廃材での工作も取り組む姿が見られた。
- ・園での体験→家庭での取り組みで子どもが主導となって取り組んでいる姿に感心した。良いきっかけになった。
- ・取り組みシートを使った家庭での取り組みを行う子が多く、アンケートからもよい経験ができたと書かれる保護者もおり有意義な教室であると感じる。
- ・電気や水、ごみなど身のまわりのことに係る内容だったため子どもたちは意識しやすかった。教室後遊んだおもちゃを自作している子もいた。
- ・思った以上に子どもたちが『SDGs』という言葉を知っていて、環境やごみの分別を意識しているのだと感じました。
- ・ごみの分別ゲームで家庭から好きなものを3つ持ってきてもらうことで保護者とエコライフ教室前にリサイクル品について話をするきっかけになってよいと感じました。
- ・子どもも保護者も一緒にごみ分別を実践できたことで家庭でも分別する意識が高まったのではないかと思います。
- ・生まれ変わったら何になるのかもとても勉強になりました。
- ・SDGsと言うとむずかしいですが、一人ひとりが“もったいない”について考え、行動することが地球の環境に良いということがわかりました。
- ・親子でゆったりと聞く事ができるお話の内容でした。終了後の給食で残さずに食べようと意識する子どもの様子も見られました。
- ・「紙コップロケット」は親子で簡単に作ることができ、とても楽しそうでした。キャッチボールのように投げ合って遊ぶことも喜んでいました。園でも参考にし、他の年齢の子どもたちともやってみたいと

思いました。

富山県地球温暖化防止活動推進員

- ・ 父母の方々に見守られながら絵本を集中してみたり、ごみの分別ゲーム体験やエコおもちゃ遊び等楽しんだり、子どもなりにエコへの関心をもったと思う。
- ・ この活動を通し、家庭でもエコライフについて考えてもらえるきっかけになればよいと思った。
- ・ 大型絵本については、子どもたちは、落ち着いて話を聴いてくれたようで、幼児には、絵本での学習が効果的だと思った。
- ・ SDGsについて、言葉を知っている子どもが増えてきているのを感じるが、家族みんなで実践できるようにはまだまだ時間がかかると思うので、子どもたちから家族への「水!」とか「電気!」、「分別」といった発言が大きいと思った。
- ・ エコ工作は、子どもたちに人気であるが、現実には、保育園や子ども園での工作の授業の1つにすぎないのではないかと。園の教育方針から外れない程度に、地球に住む生物を守るために、もっと心に訴える授業もよいのではないかと考えた。
- ・ 理解力もよく、楽しそうに体験していた。
- ・ 電気を起こすおもちゃは一生懸命になって力を使っている様子だったので、エネルギーを作る大変さを実感してくれたかなと思う。
- ・ 年長さんは、ゴミの分別の飲み込みが早かった。紙が木材から作られることも知っていて感心した。
- ・ 年中さんからは、どうやってプラや紙が再生されるのかと質問が出るなど、探究心が見られた。
- ・ 推進員は、子どもと同じ目線に立って語りかけ、一緒に考えようという姿勢が大事ですね。
- ・ 昨年実施している保育園で、打合せも実施もスムーズでした。十四歳の挑戦で、中学生（男子）が保育園に体験学習に来ており、エコライフ教室もお手伝いくださり（ゴミ分別やけん玉の模範芸など）助かりました。
- ・ 2班に分かれて実施する場合、推進員の人数がある程度必要。
- ・ 園児が多人数の場合は推進員も複数必要
- ・ 小さい頃からエコ、もったいない、無駄にしない、等を日常生活で意識するのは大切だと思いました。廃物利用のおもちゃでも楽しく遊べると感じました。
- ・ 親子で作った紙コップロケットの遊びは、十分に楽しんだようでした。
(地球温暖化防止活動推進員見学者)
- ・ 見学者として活動内容を体験した。園児たちも楽しそうに参加しており、活動の意義を再確認することができた。
- ・ 幼児とその保護者を対象に省エネやエコライフについて、幼児の発達段階をふまえた、わかりやすい授業の工夫があった。幼児が家族と共に家で実践し、継続していくことを期待したい。今後小さいときから環境に対する興味関心を高め、自ら実践していこうとする意欲をたかめる教材と授業の工夫が大切だと思いました。
- ・ 幼児を引き付ける話し方や楽しめる内容が素晴らしいと思いました。保護者のかたも参加されていたので、より実践に結びつけられるのではないかと期待しています。





各園での様子



6.28 認定こども園 和田保育園



6.30 認定こども園 いずみ幼稚園



7.6 三島保育所



7.7 若栗保育所



7.7 富山大学教育学部附属幼稚園



7.10 認定こども園 定塚保育園



7.12 新湊つくりみちこども園



7.14 前沢保育所



7.19 あずま保育所



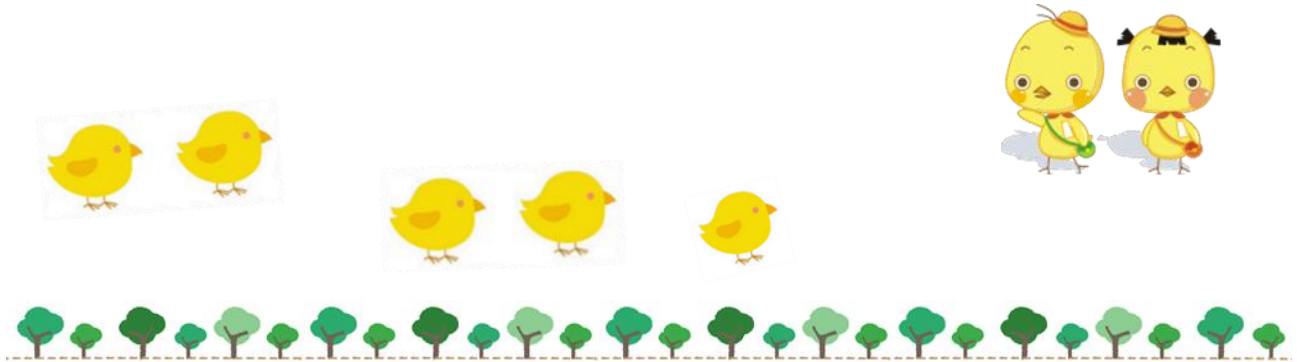
8.29 高岡第一学園附属第五幼稚園



10.20 あぶらでん認定こども園



10.27 下村保育園



【参考】

とりくみシート URL <http://www.tkz.or.jp/hajieco/houkoku.html>

エコライフ教室を実施したい幼稚園等については、(公財)とやま環境財団(電話 076-431-4607)にお問い合わせください。